

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果から（我孫子第二小）

1. 全国学力・学習状況調査の結果について

<国語>

○「書くこと」に関する問題の正答率は、全国平均を上回っている。

▲目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかなど「話すこと・聞くこと」に関する問いや、漢字を文中で正しく使うなど「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての問題などの正答率は低い。

<算数>

○「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の3つの領域に関する問題の正答率は全国平均とほぼ同じである。

▲正三角形の意味や性質、高さが等しい三角形での底辺と面積の関係など「図形」に関する問題の正答率が他の領域に比べ、やや低い。また、選択式の問題の正答率がやや低い。

<児童質問紙> ○→全国平均を上回った項目 ▲→全国平均を下回った項目

○算数の勉強は好きですか

○読書は好きですか

→上記の質問で肯定的な回答をした児童の方が概ね正答率が高くなっている。

○国語の勉強は大切だと思いますか

○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

○算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

○人の役に立つ人間になりたい

▲自分には、良いところがある。 ▲将来の夢や目標を持っている。

▲友達関係に満足している。 ▲学校の授業以外の1日あたりの学習時間

2. 成果と課題に対する今後の取組について

<成果>

- ・国語の「書くこと」に関しては、文章を書く活動を増やしたり、一定の条件のもとで考えながら書く機会を設けたりし、「書く」指導の積み重ねの成果と考えられる。
- ・算数の「数と計算」に関しては、「四則計算」「小数」「以上・以下・未満」などに関する効果的な指導をしたことや「数の計算」の領域の指導法を全職員で研究したことが功を奏したと思われる。
- ・児童質問紙の結果から、これまでの学校や家庭での指導、支援の積み重ねにより、「生活習慣・学習習慣」「国語や算数への関心等」の高まりが少しずつ見られる。

<課題と今後の取組について>

- ・国語に関しては、複数ページにわたる問題から、目的や意図に応じて、内容等を読み取ることができるようにする。また、問題の条件を満たしたか確認する方法を指導する。
- ・新出漢字の学習時に、熟語の意味の確認や比較などの学習を取り入れる。文意に合う漢字を選択したり書いたりする。
- ・算数に関しては、図形の学習時間を増やす。作図を行い、四角形の構成に着目させる。
- ・三角形の面積「 $\text{底辺} \times \text{高さ} \div 2$ 」から、底辺や高さの数値が明記されていなくても、他の情報からその長短を判断

できるようにする。

- ・算数では、少人数指導担当（本校1名在籍）と連携し、算数科の指導の充実を図る。引き続き、週1回の「算数タイム」（朝）を全校で実施し、算数の補充指導を行う。
- ・教職員の研修時間の活用法を見直し、国語の基本的な指導法等の研修の時間を確保する。
- ・引き続き、各種学力調査の分析や改善等を対象学年だけでなく、全学年で行う。出題内容と関連のある学年を中心に、設問ごとに分析等を行い、学校全体で共有する。
- ・児童が自己肯定感をもって、相互に認め合いながら生活・学習できるように、児童への声かけ、児童相互の頑張りや良さの称賛などを行っていく。